

水平線【院長コラム 2026年1月】

【表裏一体】

自分のことで恐縮だが、三女が幼少時からテニスをしていて、ある若者から定期的にレッスンを受けていた。その日の子どもはとても調子が悪く、やればやるほどテンションが下がっているように見えた。横で見ていた私はいつ雷がおちるかとハラハラしていた。何とかレッスンが終わり、彼が子どもに話したこと‥

「今日はフォアハンドを打つときの足の運びが良かった。ボールは上手く飛ばないことが多かったけど、スイングができればもっとうまくなれる。また来週練習しよう。」話に非難めいた言葉はなく、かといって飾った言葉もなかったけれど、その話が子どもに練習を続けさせ、成長できたきっかけであったと私は思っている。

ご存じの方も多いかも知れないが、これはコーチングという技術のひとつだ。人の良いところを見つけよう、そしてまずそれを口に出そう。その若者は「こう言われたらもっと頑張れる、という教えられ方」を知って、教えていた。有名な言葉に「やってみせ、言って聞かせてさせてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」というのがある。80年も前の言葉であるが、これはコーチングを具現化した一つの表現でもある。

どの分野であれその道に真摯に取り組む人からは、教科書では得られないような説得力のある教育姿勢を感じ取れる。そのような人に巡り会えると自分は得をしたな、と嬉しくなる。

世にいうハラスメントには様々な分野があるようで、その言葉について行くのも一苦労だ。ただ、コーチングの方向を真逆にするとハラスメントになる。つまり、教え方には様々な気配りが必要なのだろう。